

16. 農場HACCP推進農場における肉用牛肥育農家に対する 経営改善への取組み

北部振興局生産流通部畜産班

○石井 怜・太田 正樹

【はじめに】

現在、肉用牛肥育経営においては、素牛の高騰、飼料価格の高止まり等により厳しい状況である。北部地域は本県で最も肥育が盛んであり、特に交雑牛肥育頭数は北部管内肥育頭数の約半数以上を占める。平成24年度からは生産者及び関係団体により、飼料米を給与した交雑種を「豊後・米仕上牛」として販売強化に努めている。今回、「豊後・米仕上牛」に取り組んでいるA牧場において、経営陣と従業員が一丸となり枝肉成績の向上及び経費の削減等を目標に、農場HACCPを導入している事例を報告する。

【これまでの取組】

昨年、生産者は規模拡大に向けた農場の新しい挑戦として、関係機関は「豊後・米仕上牛」のブランド力強化を図るため、農場HACCP指導員を招き、A牧場、公益社団法人大分県畜産協会、宇佐家畜保健衛生所、大分県北部振興局でHACCPチームを結成。平成29年11月に「農場HACCP推進農場」指定申請書を提出。その結果、平成29年12月、公益社団法人中央畜産会より農場HACCP推進農場の指定を受け、HACCP認証に向けて現在取り組んでいる。

月に一度開催するチーム会議の最後には、次回チーム会議に向けての課題を洗い出し、メンバーに宿題として与え、HACCPシステムを円滑かつ効率的に進めている。また、チーム会議の検討結果を迅速に農場でも反映するため、場内会議を毎月開催し、枝肉成績の共有や従業員の資質向上のための勉強会を実施している。

【結果及び考察】

農場HACCPの取組により、従業員が一丸となって衛生管理、飼養管理を行うことで、枝肉成績は以前と比べて25kg向上。また、衛生意識の高まりにより、肥育牛の衛生費削減。さらに、従業員から衛生指導に関する質問も増えている。認証に対して受動的であった生産者も、今年の農場HACCP指導員研修に参加するなど積極的な行動が見られるようになった。

【まとめ】

関係機関と連携を継続して農場HACCPに取組み、衛生管理の向上に加えて、農場全体の枝肉成績向上を目指す。さらに、HACCPシステムにおける作業工程の文書化を行い、新たに従業員を迎えたとき、作業をスムーズに行えるよう準備しておくなど、農家がさらに規模拡大する際に必要な作業効率の向上に向けた取組みのサポートを行う。

また、今年度は県内で初となる繁殖農家による農場HACCP取得を関係者とともに行っている。今後、取組み農家の成績向上、さらに子牛を生産物として出荷することで、農場HACCPの取組を県内肉用牛農家に波及したい。